

■調査レポート

本公社アンケートによる県内経済動向

【調査の概要】

平成20年7月末時点調査（郵送法）
調査対象 県内1,000社
回答企業388社（回答率38.8%）

～ 業況見通しに懸念～

【全産業主要D I 値】

業況判断指数（D I：「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた指数）は、「前年同月比」では、▲29.7と平成20年4月実施した前回調査と比較すると、生産・販売高が4.7ポイントプラスとなった以外は、営業利益（今回調査：▲56.7）・資金繰り（▲33.2）・事業概要（▲50.5）ともポイントがマイナスとなっている。

同様に「3ヶ月先見通しD I 値」でも、すべての項目でポイントがマイナス（生産・販売高▲24.0、営業利益▲51.3、資金繰り▲40.7、事業業況▲49.3）となっており、特に「事業業況」が前回調査では唯一プラスとなっていたが、11ポイントマイナスとなり先行き懸念傾向がうかがえる。

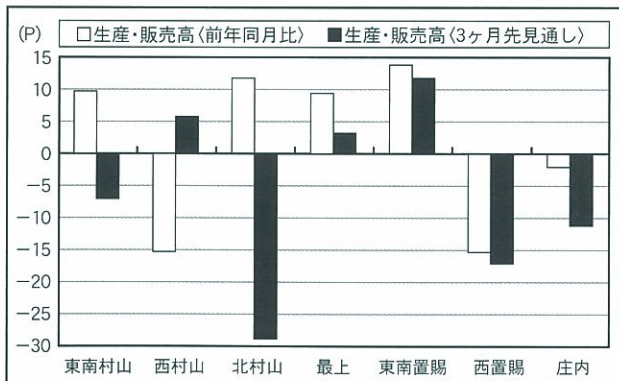
全産業の主要項目（前回調査と今回調査D I 値の差異）

（表1）

項目	生産・販売高	営業利益	資金繰り	事業業況
前年同月比	▲ 4.7	▲ 7.6	▲ 5.6	▲ 6.5
3ヶ月先見通し	▲ 5.7	▲ 3.2	▲ 5.2	▲ 11.0

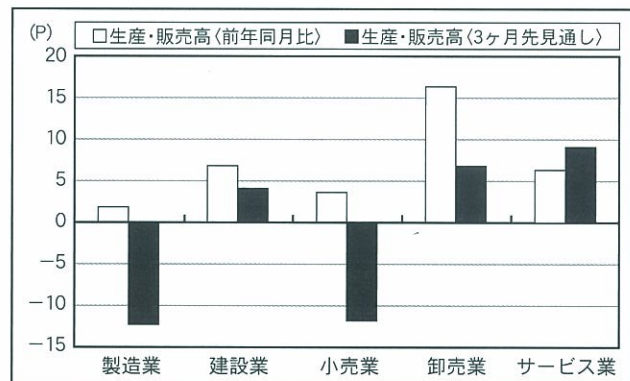
地域別の動き（生産・販売）

（図1）



業種別の動き（生産・販売）

（図2）



【地域別に比較した特長】

今回調査D I 値を「前年同月比」でみると、各地域（東南村山▲26.6、西村山▲36.4、北村山▲21.5、最上▲42.8、東南置賜▲23.1、西置賜▲31.2、庄内▲36.1）ともマイナスとなっている。一方、前回調査とのD I 値差異（図1：白棒）では、3地域（西村山、西置賜、庄内）でマイナスとなっているが、他の4地域（東南・北村山、最上、東南置賜）ではプラスとなっている。

「3ヶ月先見通し」の今回調査D I 値は、前年同月比同様に各地域（東南村山▲27.1、西村山▲16.1、北村山▲21.4、最上▲23.8、東南置賜▲19.2、西置賜▲43.7、庄内▲21.7）ともマイナスと厳しい現状を示しているが、前回調査とのD I 値差異（図1：黒棒）では、3地域（西村山、最上、東南置賜）がプラス、4地域（東南・北村山、西置賜、庄内）がとマイナスとなっており、地域間に差がみられる。

【業種別に比較した特長】

「前年同月比」の今回調査D I 値は、各業種（東南村山▲26.6、西村山▲36.4、北村山▲21.5、最上▲42.8、東南置賜▲23.1、西置賜▲31.2、庄内▲36.1）ともマイナスとなっており、依然厳しい状況が続いているが、前回調査とのD I 値差異（図2：白棒）をみると、全業種ともマイナスポイントが縮小されており、特に卸売業では16.1ポイントの改善傾向を示している。

「3ヶ月見通し」の今回調査D I 値は前年同月比同様、全業種（製造業▲14.0、建設業▲53.2、小売業▲12.5、卸売業▲43.9、サービス業▲17.0）でマイナスを示している。前回調査とのD I 値差異（図2：黒棒）では、建設・卸・サービス業で改善傾向にあるものの、製造業、小売業で懸念が高まっている傾向にある。特に製造業D I 値で平成20年1月調査（+3.2）→前回調査（▲1.6）→今回調査（▲14.0）と悪化傾向にあることが大きな要因と見られる。